

2010.6.25 鎌倉市議会可決の実験動物焼却施設に関する衆参議長、内閣総理大臣等への意見書

議長（赤松正博議員） 日程第 11「議会議案第 1 号実験動物焼却施設の設置規制について法の整備を求めることに関する意見書の提出について」を議題といたします。提出者から提案理由の説明を願います。

8 番（石川敦子議員）（登壇）ただいま議題となりました議会議案第 1 号実験動物焼却施設の設置規制について法の整備を求めることに関する意見書の提出について、提案理由の説明をいたします。便宜、文案の朗読をもちまして説明にかえさせていただきます。

実験動物焼却施設の設置規制について法の整備を求めることに関する意見書。

鎌倉市と藤沢市の市境に製菓の新研究所が建設されている。この施設内には実験動物焼却施設（最大で日量 0.9 トン焼却可能）の設置が計画されている。住宅密集地に近接していることから、近隣住民は環境面・健康面に不安を感じている。

現在、実験動物焼却施設の設置規制は、直接的な法律の定めがない。1994 年 8 月 12 日の厚生省生活衛生局水道環境部環境整備課長通知により、実験動物が一般廃棄物とされていることから、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 8 条、一般廃棄物処理施設の許可に規定された「都道府県知事の許可」を受けることによって、実験動物焼却施設の設置が可能となる。この状況下では、実験動物焼却施設が住宅密集地に設置され、近隣住民へ精神的苦痛を与え、紛争などにつながる可能性が否定できない。そのため、実験動物焼却施設の設置規制を定める法整備が早急に求められる。

法整備に当たっては、「生活の場で生きていたものを燃やす」施設である火葬場に関する法律や、民間事業者の実験動物焼却施設にかかわる自治体の指導指針・要綱に定められている項目を準用すべきである。つまり「実験動物焼却施設については行政区にかかわらず、300 メートル範囲内の土地に住む人や事業者」に計画を説明し、その後同意書を作成、許可権者に提出しなければならない」というものである。

今後、動物を製菓などの実験に使用し、焼却することは回避できないため、以上のような設置規制を法で定めることにより、近隣住民がこうむる精神的苦痛が回避されると判断する。

よって、鎌倉市議会は、実験動物焼却施設の設置規制について法の整備を強く要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。平成 22 年 6 月 25 日。鎌倉市議会。

総員の御賛同を賜りますようお願いをいたします。以上で提案の理由を終わります。

議長（赤松正博議員） これより質疑に入ります。御質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

お諮りいたします。ただいま議題となっております議会議案第 1 号については、運営委員会の協議もあり、会議規則第 44 条第 3 項の規定により、委員会の審査を省略したいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「なし」の声あり）

御異議なしと認めます。よって、議会議案第 1 号については、委員会の審査を省略することに決しました。

これより討論に入ります。御意見はありますか。

（「なし」の声あり）

討論を打ち切ります。

これより採決に入ります。議会議案第 1 号実験動物焼却施設の設置規制について法の整備を求めることに関する意見書の提出についてを採決いたします。本件は、原案のとおり決することに御賛成の方の挙手を求めます。

（総員挙手）

総員の挙手によりまして、議会議案第 1 号は原案のとおり可決されました。なお、ただいま議決されました意見書については、議長において関係機関に送付いたしますので、御了承願います。

議事の都合により暫時休憩いたします。

（以後省略）